



晴天の心

立教 189年2月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL: www.tomiishi.net
TEL: 0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 2月19日(木)午前10時～
婦人会例会 2月9日(月)午前10時～



「初日の出」
羽曳野市峰塚公園から
2026年1月1日撮影。

元旦祭を終えて、初日の出を撮影に初めて出かけました。雲一つない好天に恵まれ、予定時刻よりは少し遅れましたが見事な初日の出を拝ませて頂きました。

今年もいろいろなことがあるとは思いますが、精一杯勤

めています。どうぞよろしくお願ひいたします。



今年も美味しくいただきました。

ほぼ待ち時間なしで入っていただきました。変わらない味がうれしい。

変わったのは接待方法。以前は、餅・水菜・お出汁が別々に給仕に回っていたのですが、今は、餅と水菜がお椀に入れられておかわりの時のお椀ごと交換。お出汁は、以前はやかんだったのがポットに進化！いつも暖かいお出汁でいただける。

ポットにだしが残っていてもある程度の時間で熱いのと入れ替えているからこれもいい。

給仕もいただき方もスムーズでいい。おかわり自由ですから3杯お餅5個いただいて、満足。出口でお下がりのお餅をいただきましたそれから献血へ。

この時期は血液が不足する季節。出来る機会があるならさせて頂く。誰でも出来るとは限らない献血。去年などは、お袋は輸血してもらう方だったことを考えると、どこかでだれかの役に立っている。人助けです。

それに、血液検査にも成るからね。

いろいろ粗品もいただきましたが、今回のびっくりはマクドの500円カード！すごいね。



新しい年が始まりました。過ぎ去った年の出来事を振り返り、新たな年に思いを馳せながら「おさしづ」を拝読していると、自然にこのお言葉が目に留まりました。

一年のうちには心弾むような日もあれば、落ち込む日もあるでしょう。自分の思うように事が運ぶときもあれば、予想もしなかった出来事に右往左往することもあるかもしれません。しかし、この世界は常に子供かわいい、たすけたいという親神様の親心に満たされているのです。

「助けたいが親の心可愛が親の一条」

身上や事情に悩み、神意を伺う人々に対して、「おさしづ」では同じようなお言葉を何度も繰り返して伝えられています。

人間が陽気ぐらしをするのを見て、ともに楽しみたいとの思召から創造された世界。最初に産みおろされた小さな生命の成長を、親神様はいつも温かく見守ってこられました。

そして、いまもこの世界は、「親の心」に基づいて存在しているのです。

今年もいろいろなことがあるでしょう。しかし、自分の都合を尺度として「なぜ」「どうして」と思い悩むのではなく、どのようなときも親神様の思召を尺度に毎日の出来事を受けとめ、喜びの心をつないでゆく。そんな年にしたいものです。(岡)

明治二十一年十月 桂重平五十五才身上願

(丹波国南桑田郡勝林嶋村斯道会第五号周旋方、二十日夜十二時病ス)

さあ／＼身上一条事情尋ねる。尋ねるからよう聞き分け。長らえて先ず／＼運ぶ。
これだけ尽すのに、どういうものであろうと、何がよいどれがよいと、これは言えん。
身はかしもの心一つが我がもの。

助けたいが親の心可愛が親の一条、幾名何名あろとも可愛が親の心。
常々が第一々々。ならん／＼、身上ならんでない。そんならどうしたらよいと思うやろ。
可愛や一条の理を聞き分け。成程という理を聞き分け。成程というは、天の理である。
この理をよう聞き分けて、めんめんも成程の理をよう治めてくれるよう。

明治二十一年七月二十八日九時 山田太右衛門弟安治郎二十五才身上願

さあ／＼身上一条の一つの事情尋ねる処、いかなるも聞き分け。
先ず／＼は一つの心運ぶ。内の処も一つの心運ぶ。身に不足一時ならんでない。
何程日々尽すと、何さんげえと速やかならんから尋ねる。

難儀さしたい親は無い。助けたい、可愛とのをやの心なれども、心に不足あるから身の内の道具に不足を出せる。助けたいが一条の処、成るだけ運んで居るのに、身の処どういうものと思う心、一寸治めて置け。

人間かりもの思うようにならん／＼というは、かりものの証拠。
多くの中の理を見て、めん／＼も一つの心定め。この理を早く聞き取りてくれるようと。
案じは要らん。案じては案じの理を回る。世上見て理を治めと。

昨年を振り返ると、思いがけないことがたくさんありました。しかし、その事は時間や空間を越えて見えている神様にしてみれば、とんでもないことに出くわさないように、大難を小難になるように導くための手引きだと思うと、神様に仕組まれたのだから抜け出せる楽しもうと気持ちを切り替えることが出来る。改めてこころを決めてその出来事に取りかかる。一度、立ち止まりしっかり思案して周りの人とも相談して、神様を信じて心定めて行動すること。これが追い風となって陽気遊山へと続く道だと。

今日の
おやのことば
「助けたいが親の心」
幾名何名あろとも可愛が親の心。
助けたいが親の心可愛が親の一条。



おさしづ 明治21年10月

大阪教区より

改めまして、新年あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、新たな年を迎えるよいよ教祖 140 年祭も目前となりましたが、年祭当日には、境内地にたくさんのパイプ椅子が設置されます。

予てより、パイプ椅子の撤去は境内掛勤務者が主に担ってくださっていますが、近年の勤務者の減少から撤去作業も困難となり、現在では、月々の撤去は奈良教区の有志がお手伝いくださっている状況です。

この度の年祭のパイプ椅子撤去は、下記の日時で行われますが、撤去当日、帰参予定がある場合などは、是非ともパイプ椅子撤去をお手伝い頂けたらと、お声掛けさせて頂く次

第です。

【パイプ椅子片付け日時】

- ・ 2/3 9:30 ~ 10:30
東境内地 約 1900 枚
- ・ 2/4 9:30 ~ 10:30
中庭東側 約 1500 枚
- ・ 2/5 9:30 ~ 10:30
中庭西側 約 1500 枚

※尚、当日が雨天の場合は中止となります。
立教 189 年 1 月 10 日 大阪教区長 松井龍一郎



74. 神の理を立てる

明治 13 年秋の頃、教祖は、つとめをすることを、大層厳しくお急き込み下された。

警察の見張り、干渉の激しい時であったから、人々が躊躇していると、教祖は、

「人間の義理を病んで神の道を潰すは、道であろうまい。人間の理を立てても、神の理を立てるは道であろう。さ、神の理を潰して人間の理を立てるか、人間の理を立てず神の理を立てるか。これ、二つ一つの返答をせよ。」と、

刻限を以て、厳しくお急き込み下された。そこで、人々相談の上、「心を定めておつとめをさしてもらおう。」ということになった。ところが、おつとめの手は、めいめいに稽古も出来ていたが、かぐらづとめの人衆は、未だ誰彼と言うて定まってはいなかつたので、これもお決め頂いて、勤めさせて頂くことになった。

また、女鳴物は、三味線は飯降よしえ、胡弓は上田ナライト、琴は辻とめぎくの三人が、教祖からお定め頂いていたが、男鳴物の方は、未だ手合わせも稽古も出来ていないし、俄のことであるから、どうしたら宜しきやと、種々相談もしたが、人間の心で勝手に出来ないという上から、教祖にこの旨をお伺い申し上げた。すると、教祖は、

「さあさあ、鳴物々々という。今のところは、一が、二になり、二が三になつても、神が許す。皆、勤める者の心の調子を神が受け取るねで。これよう聞き分け。」

と言う意味のお言葉を下されたので、皆、安心して勇んで勤めた。

山沢為造は、一二下りのてをどりに出させて頂いた。

場所は、つとめ場所の北の上段の間の、南に続く八畳の間であった。

心定めの要点 (Happist より引用)

青年会ひのきしん隊に入隊し、1 ヶ月間、「ひのきしん」を勤めることになりました。全国から参加した青年会員と共に、「おやさとやかた」の普請をはじめ、さまざまひのきしんを勤めるのです。

ひのきしんが始まって間なしのこと。

私はある信者詰所の普請現場で、高さ 5 メートルほどの足場板から誤って転落してしまいました。

「アイタターッ！」

幸い大事には至りませんでしたが、着地した際に右足首を痛打してしまいました。起き上がることもできず、抱きかかえられて、そのまま病院に直行することに。

しっかりとテーピングをされ、「2週間は絶対安静です」との診断。

松葉づえで宿舎に帰ってきました。

足の痛みもさることながら、私には参加者の世話係という役目があり、それどころではなくなったことがショックでした。

一緒にひのきしんができなければ、参加した意味がありません。

その夜、見かねた責任者の方が心配し、「おさづけ」を取り次いでくださり、ともかく休みました。

ところが、翌朝目が覚めると、あれだけ痛かった右足から痛みが消えているのです。

「エ、エーッ！ うそやろ、痛くない！ 何で!?」

そうです。何ともないです。痛打したはずの右足をたたきましたが何ともない。

実際に鮮やかな、怖いほどのご守護でした。

「アレーッ？ 確かに昨日は痛かったんだけど…」

その日は山を開墾するひのきしんに恐る恐る出ましたが、本当に何ともなく、以後無事に勤めることができました。 “無我夢中！”

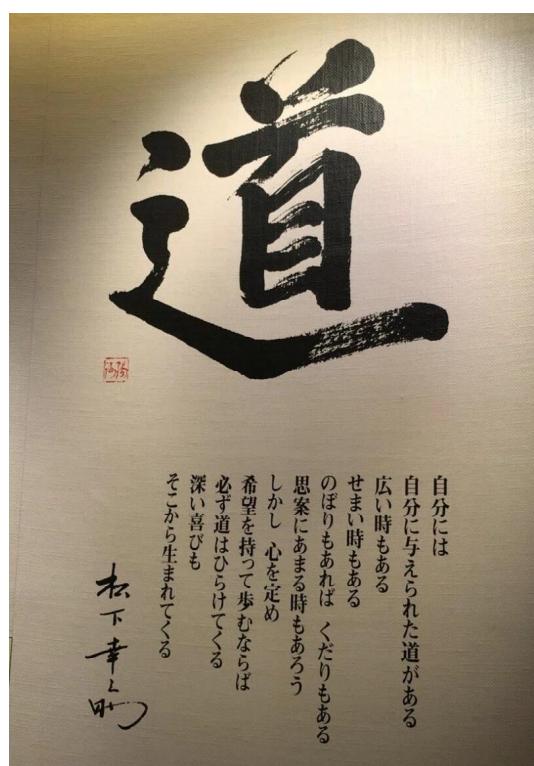
そんな私の姿に「ご守護が歩いている」と言われたのもその通りだと思いました。

なぜ、こうした不思議を見ることができたのでしょうか？

実は、おさづけを取り次いでもらう際に「心定めをしなさい」と言われたのです。

では、どんな心定めをしたかと言うと、「できても、できなくても、この1ヶ月は、松葉づえを突いてでも世話係を勤める」というものでした。結果、鮮やかなご守護でした。

私自身は、今でも「心定め」の要点を教えていただいたのだと信じています。



「おふでさき」で、
いままでハとんな心でいたるとも
いちやのまにも心いれかゑ 『おふでさき』 17号 14
しんぢつに心すきやかいかゑば
それも月日がすぐにうけとる 同 17号

15
と教えられる通りです。私はこれが「自覺的な信仰」の元一日（もといちにち）と決めています。

一般的な意味では、心を決める。ということになるのですが、おやさまの教えとしては、もう一步深くて、これに決めたという感じの選択的なものではなく、この今乗り越えな蹴ればいけないことやたすかりたい病気について、真実誠の心で神様にもたれきって、これを行います。ということになります。言挙げを行って神様との約束をするのです。

だから、しっかりと考えて心を定める必要がありますが、やりきるんだという決意にも繋がります。そのこころを受け取って神様が鮮やかに働いて下さるのです。

神様から受け取った手紙を、どう返事するのか？

たとえば、推し活中の相手にこちらの思いを伝えようとするなら、精一杯考えて喜んでもらえるように、一所懸命になると思います。そのときの心は晴れやかで、陽気で元気ではないでしょうか？

神様に対しても同じ心使いで、一所懸命になれば自ずと心も定まると思います。

教祖年祭のこの1年。何かに一所懸命になって勇んで働きましょう。